

# 炭を利用健康グッズ

## 大木工藝と龍谷大 共同開発、発売へ

炭を使ったいろいろな健康グッズ「写真」を、環境商品などの企画開発を手がけるベンチャー企業、大木工藝(大津市、大木武彦社長)が、龍谷

大学と共同で開発、「C-ION(シーイオン)」の統一ブランド名で、今月中旬から発売する。

同社は、壁面や路面に図柄や文字を熱転写する加工を本業としていたが、転写に使う樹脂素材を再利用するために高温で炭素化する特殊な窯を

開発。約七年前から本格的に炭の研究を始め、竹や流木、家庭ゴミなどを炭化処理する独自技術を確立した。

これらの技術の応用と用途開発を、龍谷大の竹本喜一特別顧問らの研究グループと共同で進め、このほど、冷蔵庫用の鮮度保持材やブラシ、あぶらとり紙など十六種類をシリーズ化して発売することになった。

C-IONの商品はいずれも、木よりも多孔質で吸着性のよい竹の炭を

利用。水のなかの不純物を取り除いておいしくするマドラーや炊飯用の炭、炭の遠赤外線が筋肉の凝りをほぐす効果のあるテープなどがある。価格は三百〜三千元。

今月中旬から、滋賀県や京都府、中部地方を中心に展開するユタカファーマシー(岐阜県大垣市、高木裕社長)のドラッグストアなどで発売する。大木工藝では初年度約五億円の売り上げを見込んでいる。

